

中学生が地域で活動する未来像

昭島市立拝島中学校長 宗像昭男

拝島駅前自治会発足 60 周年、誠におめでとうございます。記念号に学区の中学校長として寄稿させていただき、お祝いを共にできますことに心から感謝申し上げます。

本校は自治会発足より 3 年早い昭和 22 年に創立され、平成 19 年の 10 月に創立 60 周年式典を開催しましたが、学校は地域の発展と歩みを共にしてきました。これからも地域の発展と学校の発展が歩みを共にできることを願っています。

通勤に拝島駅を利用していますが、駅舎が新装になってコンコース南側のガラス窓から富士山を眺めることができるようになりました。このような駅は珍しいだろうと思います。新たに自慢できることが加わった気がします。これから南口の駅前商店街の街づくりが進んでいくと聞いていますが、楽しみです。これまでの古い佇まいにも味わいがありましたが、新たな佇まいはこれからの発展につながると期待しています。新たな駅前地区を学区とすることは、学校としても新たな学校づくりの基盤となっていくのではないかと感じます。

さて、自治会長の加藤さんは、常々、中学生の地域活動への参加の必要性を説いていらっしゃると思います。私も同感です。地域活性化の一つの要素になるのではないかと期待しています。学校 5 日制になって年月が経ちますが、昨今、学力低下が騒がれ、土曜日の授業や補習教室が盛んに話題になっています。目先の論ばかりがクローズアップされ、大きな視点が傍らに置かれているように思います。必要な論議の視点に、中学生の地域活動への参加があるのではないのでしょうか。

例えば、最近、ハイチとチリで大地震が発生しましたが、災害時を想定しても、中学生の存在に注目されてよさそうです。体力と心のやさしさを備えた中学生は高齢者や幼児等の支援者として有望です。壮年者は仕事で遠距離通勤、大学生や高校生は同じく他地区に通学して不在、という現実があるので、居住地区に確実にいるのは、中学生と退職後のシニア世代ということになります。実現には、その前に地域での世代を超えた接点づくりという高いハードルがありますが、シニア世代がコーディネーション役、中学生が実動役で機能する仕組みづくりを想定するだけでも希望が湧いてきます。

現在、見通しがあるわけではありません。中学生は実に忙しく、平日はもちろん、土・日も部活動、塾等で一杯一杯です。また、地域のクラブチームへの加入者も多く、競うように活動が拡大しています。シニア世代も自らの生き甲斐を重視して地域を越えて活動していらっしゃる方が増加しています。自治会への加入者が減少する中、新たな仕組みを築くのは難題ですが、可能性を秘めているように感じます。中学生の健全育成の視点からも着目すべきと考えます。

自治会の発足を記念し、このような未来像を語り合う機会になることを願っています。